

# 融和

地域に根差し多様な人々が  
価値を見出せる建築群の提案



近年、人々の働き方や時間の使い方が変化し働くことが生活とより密接になりつつある。居住者の成長に寄り添い、働き方の変化や時間の使い方の変化に対応した住宅等の設計を行う。また、変化に対応するためには多様な居住者のニーズに応える住宅設計が求められると考えた。

## 敷地

東京都江東区北砂7-7

今後、時間の使い方が変化していく中で比較的影響の受けやすい世代（現役期）が集中している。また、学校や子育てをしやすい環境であるため変化に敏感であるファミリー層が集まっている。その為、最も住宅等の変化が求められるエリアだと考える。周辺には、介護施設や区民館、スポーツ施設があり、多様な人々が入り混じるエリアである。前面道路を越えると仙台堀川公園（緑や水辺）という周辺地域のポテンシャルを上げている要素がある。

仙台堀川公園

大横川から小名木川合流点まで総延長3.700m、面積10.4haに及ぶ都内最大級の親水公園である。仙台堀川の岸边には桜並木、花の小満径、サイクリングロード、親水池、さらに果実の森、科学の森をはじめとする7つの森が続き、春には桜、夏から秋の果実、紅葉と人々の目を楽しませているとともに、みどりの拠点として連続かつ多様な緑が創出されている。



仙台堀川公園（遊歩道）

仙台堀川公園（川）

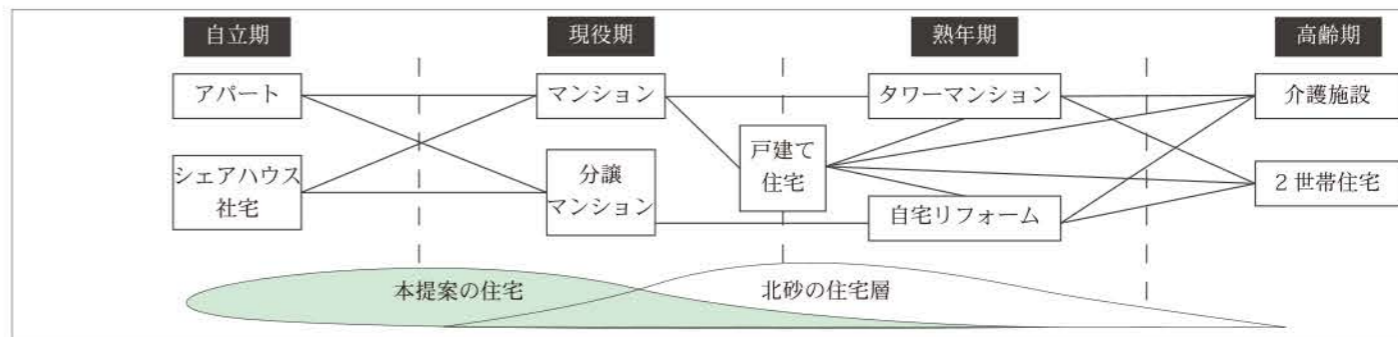
## 設計概念

### 「融和」



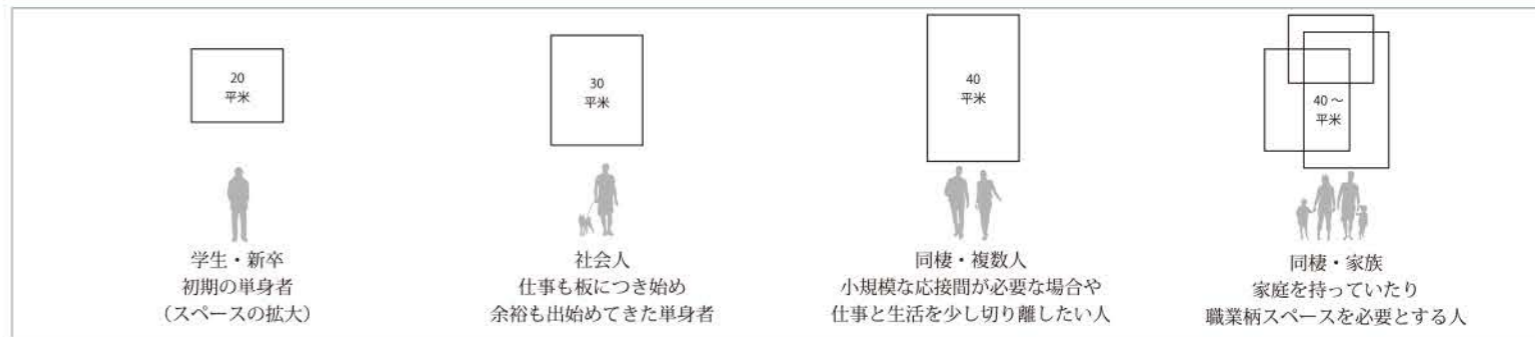
公園の移植や各世代との関わり方を利用し  
人々の生活に入り込む  
人と人、人と街、街と町が  
馴染み価値を見出すことで  
相利共生する

## ライフステージと住宅サイクル



学術的にライフステージは自立期・現役期・熟年期・高齢期の4つのステージに分けられる。北砂はマンションと戸建てが充実し、周辺には介護施設もある。そのため、現在の敷地周辺では、現役期の後半から高齢期にかけての住宅層が厚いと言える。そこで本提案では自立期から現役期に向けた住宅を考える。

## 基本居住サイズ



居住者のライフステージや家族構成に合わせ基本サイズとして、4つの居住サイズを設けた。基本運営をSOHOとし、居住空間としても仕事場としても対応出来る空間を作り出す。これにより、多様なニーズに応える空間を考えた。40年後50年後にも価値を見出し続ける建築物を設計したい。

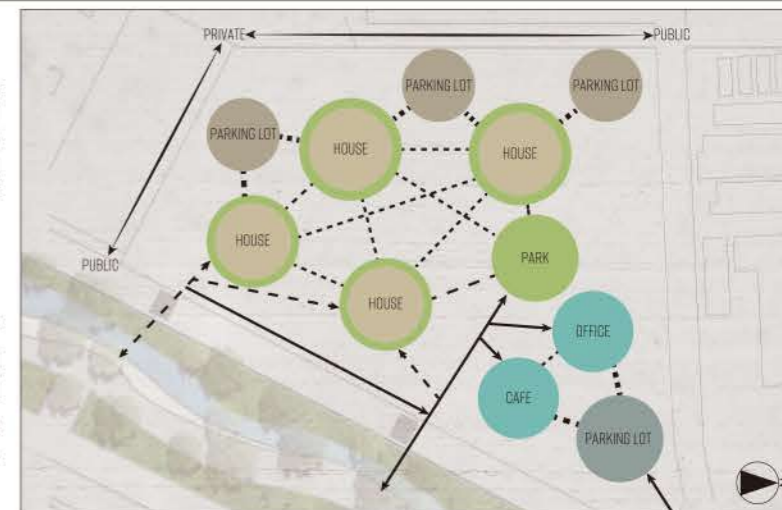
## 地域性から抽出されるゾーニング

### 周辺環境の理解

現在の主要動線・最寄駅との距離・教育施設位置・住宅層  
・仙台堀川公園の現状・地域住民と公園の関係・区営施設

### 抽出されるゾーニング

各要素の位置を定める。それに伴いおおまかな動線の構築を行う。30年かけて成熟した仙台堀川公園の木々を各棟がまとい周囲や周辺地域との調和を計る。



## 空間操作

### 空間構成

空間を構成する private・common・public これらには明確な境界線は無い。しかし、互いに適切な距離を保つ必要がある。その為、ランドスケープ操作を行い、park（木々の移植）を間に置くことで空間をグラデーショナルにつなぐ。

### 街路空間

common 空間には、直線的な路地にあえて角を設け、動線から外れたヴォイドを作り出すことでアクティビティを誘発する。



